

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【全体配布用】

No.20 岐阜県立大垣北高等学校SGH推進部

海外フィールドワークに行ってきました！ 参加者からのメッセージ集②

◇ シソワット高校・プノンペン大学等 ◇

【シソワット高校】

カンボジアの首都プノンペンにある、シソワット高校を訪問しました。シソワット高校は、1873年設立という長い歴史を持ち、ポルポト政権時代には軍の倉庫として使用されたこともある学校です。しかし、今では8棟の校舎のほか、サッカー場が1面、バレーコートやバスケットボールコートが2面あり、プノンペンで最古かつ最大の学校となっています。

シソワット高校ではまず、日本や学校、SGHについて私たちの代表者がプレゼンを行いました。日本に関するプレゼンでは、やはりアニメはよく知られているようで、知っているものを聞くと、「ナルト」など、元気な声が上が

り、驚きました。他にも、簡単な漢字のクイズに対して、積極的に参加してくれたりするなど、活発な生徒がたくさんいました。

プレゼンが終わると、シソワット高校の生徒数人に対して私たち一人ずつのグループを作り、英語でディスカッションを行いました。初めは緊張し、不安でしたが、すぐに打ち解けて楽しみながら自分の研究領域、将来の夢、それに向けてがんばっていることなどについて語り合いました。最初は、活動時間内に、沈黙せず話しかれるか心配でしたが、実際にはとても短く感じ、もっと時間が欲しいとさえ思いました。シソワット高校の生徒は母国語でないにも関わらず、とても流暢に英語を話すのでとても驚き、英語学習、特にスピーキング力の向上に関してとても良い経験になりました。

自分たちのSGHの研究テーマについて掘り下げた質問をすることができたとともに、自分自身の将来についても話す時間があ

ったため、自分の生活や将来についてよく考え直す良いきっかけになり、大変有意義な時間を過ごせたと思います。

このフィールドワークで発展途上国の実態をこの目で見て、これから自分がどう考え、行動すべきかを考えさせられました。日本だけで様々な課題を解決することはできないため、これからはさまざまな課題に地球規模で目を向け、向き合い、行動に移していければと思います。（1-3 上田怜央、後藤優斗）



【プノンペン大学】

プノンペン大学は、1960年に設立され、カンボジア最古の公立大学と言われていています。名古屋大学と比較すると、生徒数は大して差はありませんが、教職員数は名古屋大学の方が約4倍多いです。

私たちは、現地の大学院生の方々とSGHにおける自分の研究についてのディスカッションをしました。現地の方々は英語がとても流暢だったので、聞き取るのは大変でしたが、その内容はどれもインターネットなどでは決して得られないものでした。このことは、これまでインターネットなどの特定の情報に縛られていた私たちの考えを打ち砕いてくれるものでした。また、自分の伝えたいことを英語で相手に伝えることはとても難しかったけれど、「伝えよう」という気持ちがあれば、なんとか伝えることができ、私たちの自信にも繋がりました。



【CJCC（カンボジア日本人材開発センター）】

CJCCは、2004年に日本の知識や経験を活かしてカンボジアの市場経済化を促進し、市場経済化を担う実務人材あるいは地場の中小企業を主たるターゲットとした産業育成を担う人材を育成すること及びカンボジアと日本の相互理解を深めていくことを目的として設立されました。

私たちは、施設の概要やカンボジアについての話を聞きました。その中で、特に印象に残った話は2つあります。1つ目は、現地の方々の立場となって考えることの大切さです。上記に述べたように現地の方々はとても英語が上手でした。このことは、日本人の私たちにとっては、カンボジア人の長所であり、うらやましく思うものだと思います。しかし、現地の方々にとっては、「母語でない外国語も話せなくては生きていけない社会だから」と、短所として考える人もいます。そこで私たちは、自分の考えだけがすべてではないことを改めて学びました。



2つ目は、「忘れない」ということの本当の意味です。今まで、お金や物資を支給すること、技術を伝えることが発展途上国の発展に資する支援だと思っていました。しかし、それだけがすべてではなく、「忘れない」ということも支援の一つであることを学びました。私たちが目にした光景は、目を背けたい事実や日本では考えられないことももちろんありました。その事実を忘れてしまえば、それ以降何もできないし、何も変わりません。忘れないことで出来ることがきっとあると教えて貰いました。だから私たちは、今回の海外フィールドワークで見たことや学んだことを忘れずに、これからのSGHでの取組や今後の人生に活かしていきたいです。（1-4 大久保琴美、1-8 木村莉子）